



# 物語文 世界でいちばんやかましい音 ③

名前

月 日

次の文章を読んで後の問いに答えましょう。

この町の歴史が始まって以来、初めて、ガヤガヤの町は、しいんと静まり返りました。世界でいちばんやかましい音で、王子様の誕生日をお祝いするはずだったのに……。

人々は、王子様に悪いことをしたと思いました。申しわけなさとはずかしさで、人々は、頭をたれ、こそこそと家に帰りかけました。

ところが、急に、足を止めました。あれは、何でしょう？ 宮殿のバルコニーから聞こえてくる、あの音は？

まさかと思いました。まちがいありません。王子様です。王子様がうれしそうに手をたたいているのです！ 王子様は、しきりはしゃいで、とんだりはねたりしながら、庭の方を指差していました。

生まれて初めて、王子様は、小鳥の歌を聞いたのです。木の葉が風にそよぐ音を、小川を流れる水の音を聞いたのです。生まれて初めて、王子様は、人間の立てるやかましい音ではなく、自然の音を聞いたのです。生まれて初めて、王子様は、静けさと落ち着きを知ったのです。そして、王子様は、それがすっかり気に入りました。



ペンジャミン・エルキン作／松岡享子訳『新しい国語五』東京書籍

① 今までに、ガヤガヤの町が静まり返ったことはありませんか。

② 町の人々は何で王子様の誕生日のお祝いをするはずでしたか。

③ あの音とはだれが何をしている音ですか。

④ まさかと思った理由に○をつけましょう。

( ) 宮殿のバルコニーから王子様がはしゃぐ音が聞こえてきたから。

( ) 世界でいちばんやかましい音が聞こえなかったから。

( ) 生まれて、初めて小鳥の歌を聞いたから。

⑤ 小鳥の歌、木の葉が風にそよぐ音、小川が流れる水の音を別の言葉で何の音と表現しますか。

⑥ それがとは何のことですか。

フアイト！

